



# 写真で見る第16回学会大会

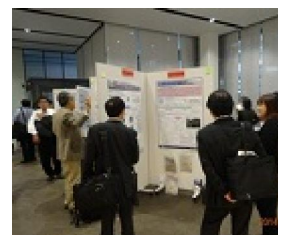
日本災害情報学会は、第16回学会大会（実行委員長：平井邦彦長岡造形大学教授）を、日本災害復興学会との共催により10月23日～26日の日程で、アオーレ長岡（新潟県長岡市）で開催した。大会では98件（口頭77、ポスター21）（日本災害復興学会を含めると計146件）の研究発表が行われ、264名（日本災害復興学会を含めると延421名）が参加して活発な議論が展開された。また、25日には、「中越大震災と復興情報—震災時における情報伝達の重要性」と「中越から東日本大震災へ—持続可能な復興を目指して」の2つのシンポジウムを開催し、一般にも公開した。

10月23日（木）	エクスカーショ	
10月24日（金）	開会式	9時45分
	〔復興〕分科会・オーガナイズドセッション	10時00分～12時00分
	〔復興〕分科会・オーガナイズドセッション	13時30分～15時30分
	〔復興〕全体会議	16時00分～17時30分
	ナイトセッション	18時00分～20時00分
10月25日（土）	〔復興・情報〕口頭発表	10時00分～12時00分
	〔復興・情報〕ポスターセッション	12時00分～13時30分
	〔復興・情報〕公開シンポジウム	13時30分～17時00分
	〔復興・情報〕交流会	18時00分～20時00分
10月26日（日）	〔情報〕口頭発表	9時00分～11時45分
	〔情報〕総会	12時30分～13時20分
	〔情報〕廣井賞表彰式	13時20分～13時40分
	〔情報〕阿部賞、河田賞表彰式	13時40分～14時00分
	〔情報〕口頭発表	14時15分～17時30分



全国各地から264名が長岡に！

写真で見る学会大会2014



## 廣井賞授賞式・記念講演

日本災害情報学会は 2006 年、初代会長の故廣井脩氏（元東京大学大学院教授）の志を後世に伝えるため廣井賞を創設し、8 回目の授与式を 10 月 26 日、学会大会席上で行った。

今年榮譽に輝いたのは下記の社会的功績分野 1 団体。

分野	受賞者	対象功績
社会的功績 (団体)	株式会社サーベイリサーチセンター	社会調査専門会社としての枠を超え 災害時における社会調査の草分け的な存在として36年の長きにわたり一貫して被災者や被災地に寄り添う姿勢を貫いて災害情報研究の進展を支える社会調査を続けてきた。



## 河田賞・阿部賞授賞式

日本災害情報学会は 2014 年、若手会員の奨励を目的に、学会大会での優秀発表に対して、ポスター発表部門には阿部賞、口頭発表部門には河田賞を創設した（両賞は、元会長の阿部勝征氏（東京大学名誉教授）及び河田恵昭氏（京都大学名誉教授）の名を冠したもの）。

今年の実賞者は下記の 9 名。

分野	受賞者	表彰発表タイトル
阿部賞 (優秀若手ポスター賞)	本間 基寛 (京都大学防災研究所)	不確実性を伴う災害情報の表現方法に関する検討 —大雪情報を事例として—
	横幕 早季 (静岡大学防災総合センター)	防災実務者を対象とした人材育成講座の構築 ～ 修了 1 年後アンケート結果を踏まえて～
	桑原 健悟 (関西大学総合情報学部)	避難時の心得における挿絵と説明文の対応関係について
	石井 雄輔 (東洋大学大学院理工学研究科)	洪水時の住民避難特性に関する国際比較分析
河田賞 (優秀若手発表賞)	廣井 悠 (名古屋大学減災連携研究センター)	東日本大震災時に発生した地震火災に関する質問 紙調査
	岡田 夏美 (関西大学大学院社会安全研究科)	小学校の教科書における防災学習内容の量的分析
	金井 昌信 (群馬大学大学院理工学府 広域首都圏防災研究センター)	東日本大震災以後の学校防災教育の現状—効果と 課題—
	中川 政治 ( (公財) みらいサポート石巻)	被災地の震災伝承における AR 技術活用の取り組 —石巻市における「防災まちあるき」実践事例—
	中居 楓子 (京都大学大学院情報学研究科)	津波避難計画における実行可能性の検討



# 公開シンポジウム

「中越大震災と復興情報—震災時における情報伝達の重要性」



「中越から東日本大震災へ—持続可能な復興を目指して」



# 懇親会



# 大会雑景

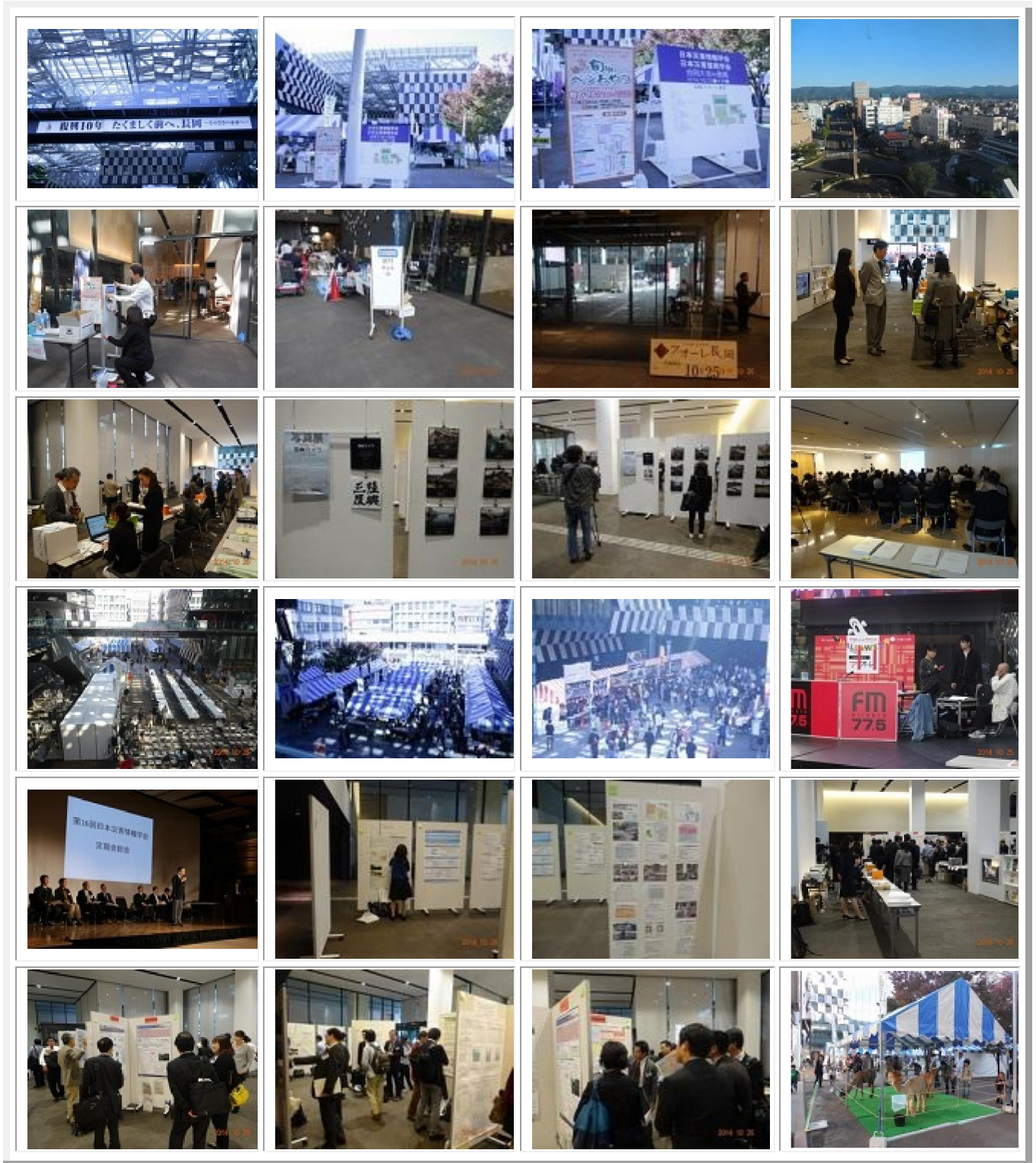


PHOTO by KAIDA , SAITO and KURODA